

世界を旅して地理を学ぼう！

教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

文部科学省検定済教科書
46 | 帝国 | 地A-312
高等学校地理歴史科用



高校生の 地理A

G E O G R A P H Y



いざな
旅への誘い

人と自然が織りなすコントラスト

→ p.92

エーゲ海南部に浮かぶ、周囲十数kmの小さな島である。島は火山によって生まれ、建物は火山の外輪山に沿うように点在する。石灰を含んだ白い塗料で塗られた家の壁は、地中海の海と空の青に映えて、美しいコントラストを生み出す。

サントリーニ島
(ギリシャ)



天空からのびる光の帯

→ p.108

コロラド川の支流を流れる鉄砲水が、長年にわたり岩を侵食することによってつくり出した渓谷である。狭い幅の渓谷に水が何度も流れたため、谷の幅は2、3mしかないが、側面の壁の高さは30m以上にもなる。渓谷のすきまから光がさし込む時間になると、まるで天空からの光に吸い込まれているかのような、神秘的な光景が広がる。

アンテロープキャニオン
(アメリカ合衆国)



好奇心あふれる一年に！

世界を旅して
地理を学ぼう！

特色 1 旅をしながら地理が学べるストーリー展開 → p.4-9

- 世界各地の姿を鮮明にイメージできるダイナミックな写真 **大判化でさらに大迫力**
- 学習の要点にふれた臨場感あふれる旅行体験記
- 写真と旅行体験記から本文へ導かれるスムーズな学習展開
- 学習すべき内容や重要語句がコンパクトに整理された本文 ※本書に で示しています。

特色 2 食生活を切り口に楽しく学べる農業 → p.10-13

- 生徒の興味関心が高まる食生活をテーマにした写真
- 地域性豊かな食文化にふれた旅行体験記
- 農業への理解が深まる食生活と関連づけた本文

特色 1 と 特色 2 で学べる世界の諸地域 ▶ ヨーロッパの例 → p.14-23

特色 3 リアリティが感じられる防災 → p.24-27

- 近年発生した被害事例を切り口にした学習展開
- 自然現象への理解が深まる大きな模式図
- 生徒にとって身近な事例を取り上げた本文

その他 (全体構成, ユニバーサルデザインへの対応 など) → p.28-31

氷河がつくる地形の険しさが理解できる写真



マッターホルン

Report アルプスの絶景に感動!

鉄道王国のスイスでは、山をくりぬいて、標高3000mぐらいまで鉄道が通されている。それだけでも驚きだけど、山頂の駅を降りてみてビックリ!いきなり目の前にマッターホルンが飛び込んできた。ふもとのホテルから見ても、とてもきれいだったけど、近くで見るとその迫力に圧倒された。ここからは、マッターホルンを見ながら、ふもとに向かってトレッキングだ!

↑① 氷河の侵食によって山頂が鋭くとなったマッターホルン(スイス、ツェルマット近郊, 2011年8月撮影)

←② 絶景のなかを走る氷河特急(スイス、クール近郊) アルプス山ろくの変化に富んだ景色を、車窓から楽しむことができる。

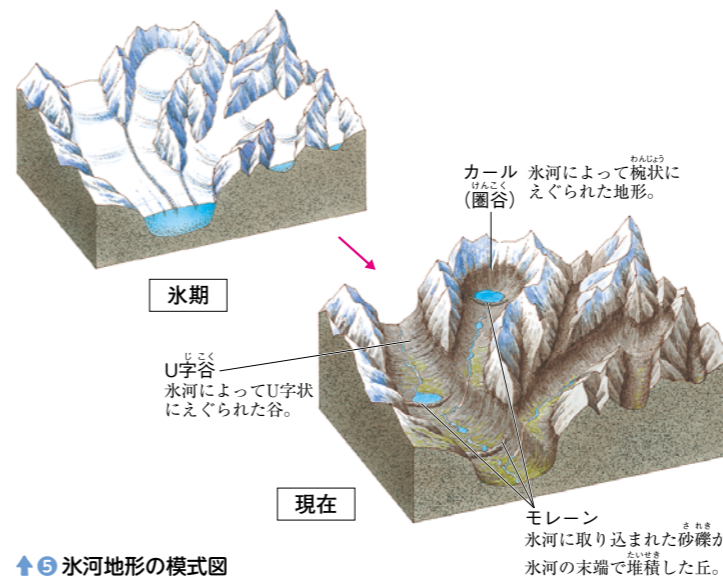


スイスの山岳地帯への旅を疑似体験できる臨場感あふれる旅行体験記

スイス、サンチャテル近郊) アルプスでは、乳牛の飼育がさかんで、牛乳やチーズ、バターなど乳製品を使った料理が有名である。

↓④ U字谷(スイス、ツェルマット近郊, 2015年4月撮影) 氷河が谷を削ってつくられたU字谷の迫力を感じることができる。

氷河に削られたU字谷の迫力をイメージできるダイナミックな写真



↑⑤ 氷河地形の模式図



↑⑥ フィヨルド(ノルウェー、スタヴァンゲル近郊, 2012年撮影) U字谷に海水が浸入してできた。

4 氷河地形・カルスト地形

氷河がつくる地形 世界的な観光地であるスイスアルプスは、山ろくから山頂まで3000mをこえる標高差があり、山頂付近には氷河が発達している。高山や高緯度地方などの寒冷地では、降った雪が圧縮されたり凍ったりして氷のかたまりに変わり、氷河となる。氷河は、長い時間をかけてゆっくりと流れ下りながら、谷を深くえぐり取り、U字谷やカール(圏谷)をつくる。となり合ういくつかのカールが発達すると、マッターホルンのようなとがった峰ができる。氷河がとけたあとに現れるU字谷の谷底は平坦で、農牧業などが営まれている。スイスでは、家畜を季節の変化に合わせて移動させる移牧がさかんで、伝統的な山村では、夏には牧草を求めて標高の高い冷涼な場所へと上り、冬が近づくともとへ下りる生活が繰り返されてきた。ノルウェーなどの高緯度地方では、U字谷が海面の上昇によって水没したフィヨルドとよばれる奥深い入り江が見られる。波がおだやかなフィヨルドの湾内は、よい漁場となるため漁業がさかんで、さけなどの養殖も行われている。

カルスト地形 石灰岩や大理石からなる地域では、岩の主成分である炭酸カルシウムが、雨や地下水に含まれる二酸化炭素などと化学反応を起こし、岩が徐々にとけていく(溶食)。溶食によってつくられた地形をカルスト地形という。地表には、とけ残った石灰岩が散在したり、円状の窪地が多数できたりする特異な地形が生じ、その地下では鍾乳洞がつけられる。コイリン(桂林)のように高温多湿な地域では、溶食が進んで塔状の石灰岩が林立する景観も見られる。

スイスアルプスへの旅の話題を生かした書き出しによるスムーズな学習展開

↑⑦ 秋吉台(山口県、美祿市, 2011年撮影) 多数の窪地が分布し、とけ残った石灰岩の柱が一面に立ち並んでいる。



↑⑧ タワーカルストとよばれる塔状の石灰岩(中国、コイリン(桂林)) 100m以上の高さをもつ奇岩がいくつも並んでいる。古くから山水画や詩の題材として取りあげられ、現在では世界的に有名な観光地となっている。

氷河地形・カルスト地形についての学習内容がコンパクトに整理された本文

サンゴや熱帯魚が生息する熱帯の海をイメージできる写真



↑① サンゴの海に生息する熱帯魚。マレーシア、ボルネオ島近海、2015年撮影

熱帯の気候や植生にふれた旅行体験記

↓② 枝の上でバナナを食うウータン(マレーシア、ボルネオ島)



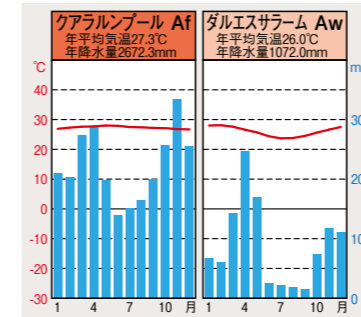
↑③ カラフルな果物が並ぶ市場(マレーシア、ボルネオ島)



高木がおい茂る熱帯林をイメージできる写真

→④ 高床式の住居(カンボジア、2015年、3月撮影) 雨季の洪水による浸水や湿気を避けるために高床にし、風通しをよくするために、壁にはやしの葉を使っている。近年は雨もりを防ぐために、トタン屋根の住居もみられる。

↓⑤ 熱帯の雨温図(理科年表 平成28年)



熱帯の豊かな自然環境への理解が深まるボルネオ島の海や森の話題を生かした書き出し

2 熱帯の気候と人々の生活

熱帯の豊かな自然の恵み

マレーシアのボルネオ(カリマンタン)島では、海にはサンゴ礁、海岸には白い砂浜やマングローブ、山には背の高い木々がうっそうと茂る森がみられる。これは、雨が多く一年中暑いことと関係している。ボルネオ島のように赤道周辺に位置し、一年中気温が高い地域を熱帯という。熱帯地域の温かい海では、ダイビングなどを楽しむ人も多い。

熱帯のなかでも、赤道に近い地域では1年を通して雨が長く、このような気候を熱帯雨林気候(Af)という。雨は毎日のように午後の短い時間、突風を伴う激しい雨(スコール)として降ることが多い。暑さと雨の多さから、ボルネオ島の森のように背の高い密林(熱帯雨林)が茂る。この地域では、湿気を避けるために高床式の住居が多くみられる。農業は伝統的に焼畑が行われていたが、現在は油やしや天然ゴムなど輸出向けの商品作物の栽培がさかんである。また、マンゴーやパパイヤなど暑い地域で育つ果樹も栽培されている。

熱帯雨林気候の周辺部では、1年が雨の多い雨季と乾燥する乾季に分かれるサバナ気候(Aw)となる。この地域では、たけの長い草原の中に、乾燥に強いアカシアなどの木がまばらに生えるサバナが広がる。アフリカのサバナでは、象やキリン、シマウマなど大型の野生動物の群れも見られる。こうした乾季のある熱帯では、稲、バナナ、コーヒー、綿花、さとうきびなどが栽培されている。

キリマンジャロ山



↑⑦ アフリカのサバナの雨季(ケニア、4月撮影)



↑⑧ アフリカのサバナの乾季(ケニア、9月撮影)

読み取り 写真7と写真8の植生を比べてみよう。

1 野生の木や草に火入れをして焼き、その土地で畑作を行うこと。植生が除かれて農地が確保され、灰は肥料になるが、地力は数年程度で落ちてしまう。

熱帯の気候と人々の生活についての学習内容がコンパクトに整理された本文

ドバイの経済発展を鮮明にイメージできる高層ビルと人工島の写真



↑1 ペルシア湾に広がるアラブ首長国連邦。ドバイはもととして石油の産出地として発展してきた歴史がある。

経済発展や自然環境などの学習の要点にふれた旅行体験記

↑2 ゴールドスーク(金の市場)に並ぶ金のアクセサリ(アラブ首長国連邦、ドバイ、2015年撮影) ドバイはもととして金の取引拠点として発展してきた歴史がある。



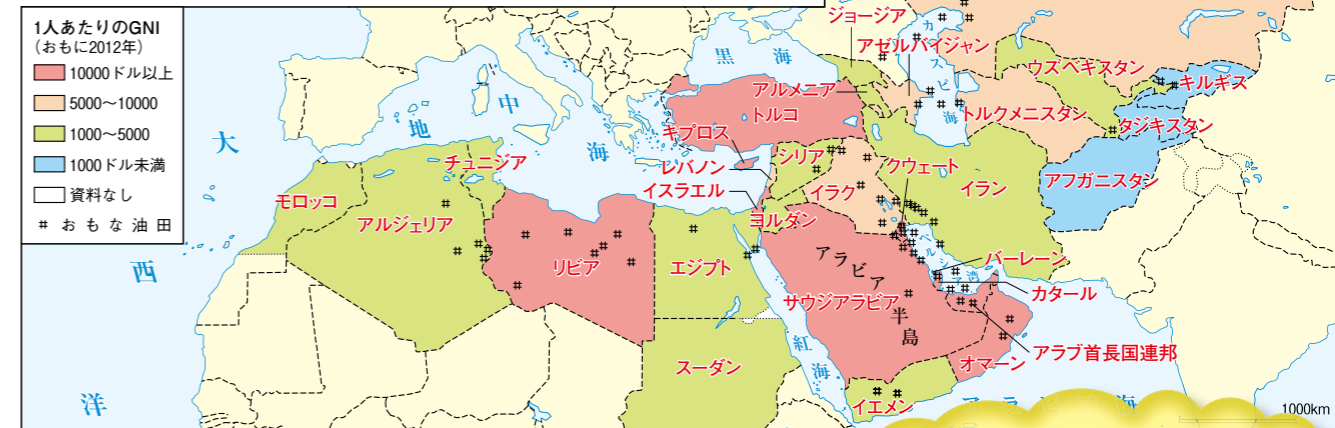
↑3 世界最大級の水槽をもつ水族館(アラブ首長国連邦、ドバイ) この水槽は、世界最大級のショッピングモールの中にある。水槽に使われている巨大な透明アクリルパネルは日本製である。

Report
未来都市ドバイ!!

ドバイに着くと、近代的な高層ビル群が目前に広がった。砂漠の中にビルが立ち並ぶようすはなんとも不思議な光景だ。しかし、いちばん驚いたのはパーム・ジュメイラとよばれるやしの木の形をした巨大な島だ! これも人工的につくられたものらしい。近くの巨大なショッピングモールには、水族館や屋内スキー場まであった(ドバイ)ここにいると、砂漠の都市にいることを忘れてしまいそうになる…。

地理的事象を読み取るための着眼点を示した「読み取り」

↓4 中央アジア・西アジア・北アフリカの油田の分布と各国の1人あたりのGNI(World Bank 資料、ほか) 「読み取り」1人あたりのGNI(→p.142)が高い国に注目しよう。



3 豊かな石油資源と生活の変化

石油による発展から新しい産業への転換

かつて金の取引拠点であったドバイに高層ビルが建てられたり、人工島がつくられたりする

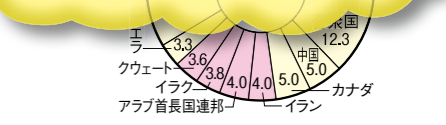
背景には、中央アジアから西アジア、北アフリカにかけての地域が、石油などのエネルギー資源に恵まれていることが関係している。産出国は

5 それらの資源を輸出することによって、巨額の利益を獲得し、都市の開発や生活レベルの向上などを進めてきた。また、石油生産の少ないドバイは、産油国に近い立地を生かして、貿易や物流の拠点として成長をとげた。1980年代以降、石油輸出機構(OPEC)の影響力が低下し、石油収入が頭打ちになると、各国で新しい産業に進出する動きがみられるようになった。例えばドバイでは、水族館などの娯楽施設や大型のショッピングモールを建設して、観光産業の発展に力を入れている。

地域の課題

この地域では、産油国などの一部の国のみが裕福で、それ以外の国との経済格差がひじょうに大きい。また、石油が世界的に重要な資源であることから、この地域の紛争は国際社会を巻き込んだものとなりやすい。近年、独裁的な支配が長く続いてきた国々で民衆が立ち上がり、チュニジアやエジプト、リビアなどで政権が崩壊するできごととも生じた。さらに、内戦の続くシリアやイラクの北部を拠点とした過激派組織のISIL(「イスラム国」)が勢力を拡大し、周辺地域の不安定要因が増大している。その結果、大量の難民が発生し、ヨーロッパへの流入が問題となっている。この地域の経済や政治の不安定な情勢は、日本を含め、世界の国々に深くかかわる重要な課題となっている。

石油資源による生活の変化への理解が深まるドバイの高層ビルや人工島の話を生かした書き出し



↑5 原油の生産国(2014年) (BP Statistical Review of World Energy)

↑1 ペルシア湾やカスピ海周辺地域では、石油の埋蔵量がとくに豊富である。中央アジアのカザフスタンでは、ウランやレアメタルなどの鉱産資源も産出する。

発見! 日本と世界のかかわり

食材としてのなつめやし

お好み焼き用のソースのパッケージを見ると、原材料名に「デーツ」と書いてあった。デーツとは西アジアや北アフリカで広く栽培されているなつめやし(→巻末I⑤)の果のことで、甘くて栄養価が高く、ソースに使えば独特の風味と甘みが出る。私たちの食卓も、西アジアや北アフリカの国々とながっているのだ。



豊かな石油資源と生活の変化についての学習内容がコンパクトに整理された本文

小麦の生産が多い地域におけるカレーの食べ方がわかる写真



チャパティ

チャパティ

① チャパティをカレーにつけて食べる人々(インド、デリー) ヒンドゥー教徒には、「左手は不浄」とする考え方があり、食事の作法にも反映されている。

読み取り ①②の写真で、左右どちらの手を使って食べているのか、見てみよう。

各地で生産される作物とカレーを関連づけた旅行体験記

② ご飯にカレーを混ぜて食べる人々(インド、ケーララ州) 南インドでは、ご飯や、米と豆をすりつぶして発酵させたドーサーが主食となっている。



ドーサー

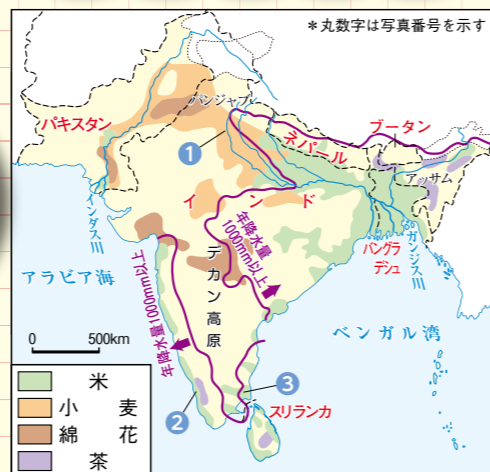
ご飯

米の生産が多い地域におけるカレーの食べ方がわかる写真

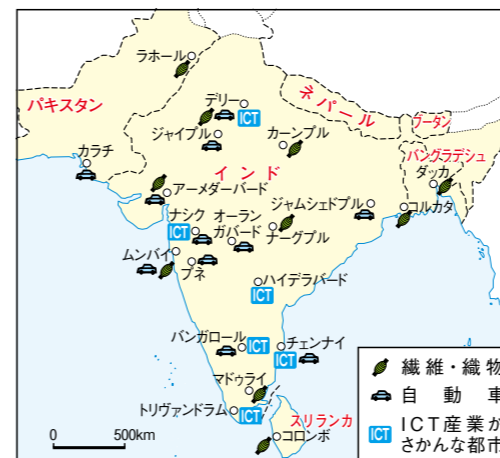


田植え(インド、タミルナドゥ州)

農業のようす



④ 南アジアの農業(Alexander Kombiattlas 2003, ほか) 読み取り 年降水量1000mmをこえる地域のおもな作物は何だろうか。



⑤ 南アジアの工業(Diercke Weltatlas 2008, ほか) ⑥ バングラデシュの衣料品工場(ダッカ, 2014年撮影) バングラデシュには、外国企業から委託を受けて衣料品を生産する工場が多数あり、多くの女性たちが働いている。



③ 発展する南アジアの産業

多様な自然環境と農業

南アジアの料理と言えばカレーが有名だが、その風味や具材は地域によってさまざまである。自然条件にしたがった農作物の違いがあれば、ヒンドゥー教徒は牛を食べず、イスラム教徒は豚を食べないように、宗教にしたがった違いもある。

5 インドの沿岸部やヒンドスタン平原は、豊富な雨を生かした稲作地帯となっている。同じく雨が深いインドのアッサム地方やスリランカなどでは茶の栽培がさかんで、デカン高原の綿花とともに商品作物として、植民地時代から大量に生産・輸出されてきた。比較的乾燥しているインド北西部では、小麦が穀物栽培の中心となっている。このように、南アジアでは風土に適した作物が栽培されている。独立後のインドは、食料を増産するため、品種改良や灌漑面積の拡大、肥料の普及を進めた。この緑の革命の結果、インドは世界有数の米・小麦の生産量を誇っている。

成長する工業とICT産業

インドは独立後、国内企業を保護して工業化を試みたが、生産効率は上がらなかった。そのため、

15 1990年代に政策を転換して外国資本を導入した。その結果、自動車産業などを中心に工業化が進んだ。現在のインドの経済発展を牽引しているのは、情報通信技術 (ICT) 関連産業である。その背景には、英語や数学に堪能で低賃金の技術者が豊富なこと、時差を利用して、アメリカ合衆国が夜の間に業務を引きついで行えることなどがある。インドは人口の多さと近年の経済成長から、大きな市場としての発展が期待され、BRICSの一国に数えられている。一方、隣国のバングラデシュでは、安い労働力を強みとした衣料品の生産が急成長している。

自然環境に合わせた南アジアの農業への理解が深まるよう、カレーの具材と関連づけて記述された本文

人口が多く巨大な消費市場をもつインドには、日本の自動車メーカーが多数進出している。これらの企業は、インドの人々が入手しやすい低価格の小型自動車などを生産・販売している。現在では、日系の自動車メーカーが現地で生産する車が、インドの自動車生産の5割(2013年)を占めるまでに成長している。



⑦ 日系自動車メーカーの販売店(インド、オーランガバード, 2012年撮影)

BRICSは、2000年代に入り急速に経済が発展したブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ共和国の英語表記での国名の頭文字を並べたもの。広大な国土と多くの人口をもち、将来の市場として期待されているが、近年は各国の経済成長にかけりがみえはじめています。

レストランのにぎわいが感じられる写真



Report

超ビッグ! テキサステーキ

テンガロンハットをかぶったカウボーイファッションの人々がいるテキサスで、有名なステーキハウスに行ってみた。好みの大きさのステーキを注文できるので、いちばん小さい8オンス(約230g)のステーキを注文したけど、もうおなかいっぱい! まわりのアメリカ人たちは、もっと大きいステーキをペロリと食べていて驚いた。

↑① ビーフステーキを食べる人々でにぎわうレストラン(テキサス州、アマリロ、2015年撮影)

→② 店の名物の巨大ステーキに挑戦する男性(テキサス州、アマリロ、2012年撮影) 写真のステーキは72オンス(約2kg)で、1時間以内に食べれば無料になる。

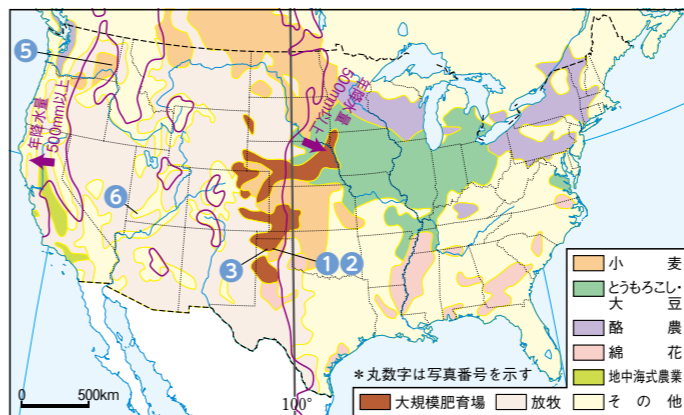
↑③ フィードロット(テキサス州、アマリロ近郊) フィードロットは、栄養価の高いえさを与えて肉牛を肥育する施設で、あぶらののった肉質の牛を短期間で効率的に育てることができる。



ステーキハウスでの食事を体感できる旅行体験記



農業のようす



↑④ アメリカ合衆国の農業地域(Goode's World Atlas 2010, ほか) 読み取り 年降水量500mmの線を境とする分布の違いに着目しよう。



↑⑤ 大規模な小麦の収穫(ワシントン州、プルマン) 収穫請負人(コンバインクルー)が、生産地を移動しながら収穫作業を行う。

3 世界の市場に影響を及ぼす農業

広大な国土を生かした大規模な農業

世界有数の牛肉生産国であるアメリカ合衆国では、価格が比較的に安いので、レストランなどで牛肉がたくさん食べられている。この牛肉は、フィードロットとよばれる大規模な肥育場で飼育された肉牛から、大量に生産されている。

フィードロットに象徴されるように、アメリカ合衆国の農業の特徴は、規模の大きさにある。中央部のプレーリーやグレートプレーンズの一帯は世界屈指の穀倉地帯で、乾燥に強い小麦が大型コンバインなどを使って大規模に生産されている。乾燥地帯では、地下水を利用することで農業生産が可能になり、おもに飼料用の穀物が栽培されている。そしてその周辺では、生産された飼料を利用した肉牛の飼育がさかんである。

アメリカ合衆国は世界有数の穀物生産国であり、輸出国でもある。広大な農地では、大規模かつ企業的に農業が展開されており、気候・地形・土壌など地域の自然環境に適した農産物を生産する適地適作が行われている。農業地域は西経100度付近を境に、降水量の少ない西側での放牧や灌漑農業、降水量が多く湿潤な東側での畑作農業に大別でき、小麦以外にもとうもろこしや大豆、綿花など多様な作物が栽培されている。

アグリビジネス企業とその影響

アメリカ合衆国で発達しているアグリビジネス(農業関連産業)は、世界の農業・食料市場に多大な影響を与えている。その分野は、農産物の販売や流通、種子や農薬・化学肥料の開発、農業機械の開発など多岐にわたる。なかでも穀物メジャーとよばれる巨大な穀物商社は、独自のネットワークを駆使して収集した、世界各地の作付け状況や収穫に関する情報にもとづいて穀物を販売し、国際市場における穀物価格の変動に大きな影響力をもっている。

アメリカ合衆国の大規模農業への理解が深まるよう、レストランで食べられる牛肉と関連づけて記述された本文



↑⑥ 乾燥地帯で広く行われているセンターピボットによる大規模灌漑(ユタ州) 地下水をくみ上げ、回転するアームから散水するスプリンクラーを使って灌漑しているため、円形の農地になる。

小	アメリカ合衆国	オーストラリア	アルゼンチン	5.8
合計	19.9%	12.8	10.6	10.0
1億6655万t	フランス	カナダ	ロシア	パラグアイ
大豆	アメリカ合衆国	ブラジル	36.2	11.9
合計	37.7%	8.7	8.7	8.7
9102万t	アメリカ合衆国	ブラジル	アルゼンチン	その他
とうもろこし	41.9%	14.4	8.7	7.1
合計	1億965万t	アルゼンチン	ウクライナ	フランス
綿花	アメリカ合衆国	インド	9.7	9.2
合計	33.8%	オーストラリア	ブラジル	24.5
820万t				

↑⑦ おもな農産物の輸出国(2011年) (FAOSTAT)



7節 ヨーロッパ

地中海性気候の自然環境や住居の特徴にふれた旅行体験記

数あるリゾートとして知られている。

Report

あこがれのエーゲ海バカンス♪

夏休みにギリシャに旅をした。今回の目的は、ずっとあこがれていたエーゲ海のリゾート、ミコнос島に行くこと。到着してまず目に飛び込んできたのは、日ざしに照らされた家々の白壁と、青い海のコントラスト。ほんとうにきれいで、しばらく写真も撮らずに見とれてしまった。街なかに入ると、ヨーロッパ中から集まった観光客でおおにぎわい！散策したり日光浴したりして思い思いにリゾートを楽しんでいる。海を見ながら、私もカフェで冷たい飲み物でも飲もう♪



↑② 海岸の

写真や旅行体験記を生かした書き出しによるスムーズな学習展開



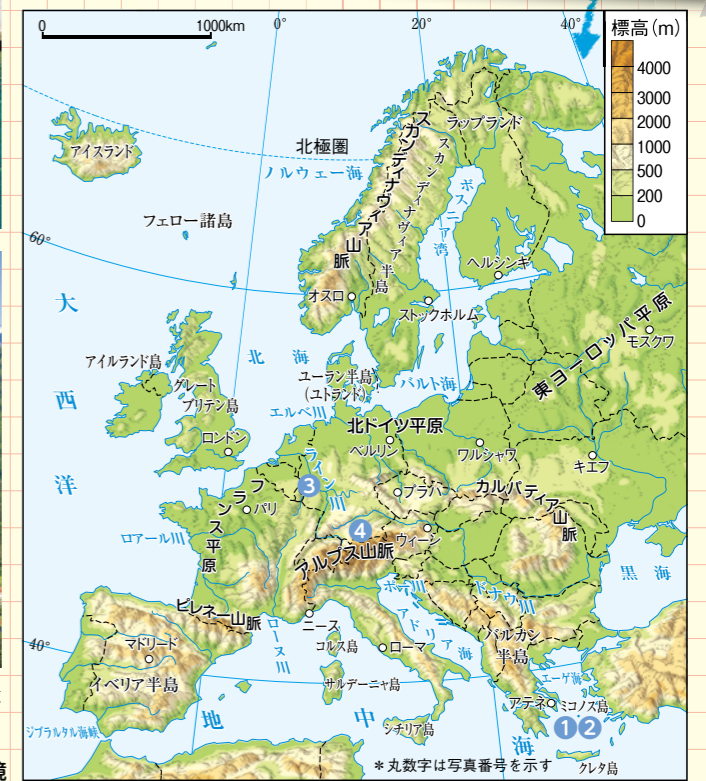
地中海性気候の景観を鮮明にイメージできる写真



自然環境の地図は、全地域共通で誌面の同じ位置(導入の右下)に配置

↑③ 大型の

パでは、国際河川を接続するように、多くの運河が完成して



↑④ アルプス山脈とノイシュヴァンシュタイン城(ドイツ、2014年撮影) 背後のアルプス山脈は、オーストリアとの国境になっている。

↑⑤ ヨーロッパの自然環境

① ヨーロッパの自然

ヨーロッパのデータ

*ロシアを除くヨーロッパ44か国の合計

面積 604.6万km²(2013年)
(日本の面積の約16倍)

人口 6.0億人(2013年)
(日本の人口の約4.7倍)

グリニッジ標準時との時差
ロンドン +0:00(日本との時差-9:00)

日本からの飛行時間 (成田国際空港発)
ロンドン 約12.5時間 ローマ 約13時間

アルプスが分ける自然環境

夏になると、明るい太陽の日ざしを求めて、涼しいヨーロッパ北部から地中海沿岸へ多くの人々がバカンスに訪れるように、ヨーロッパの自然環境には、南北で大きな違いがみられる。その境界となっているアルプス山脈は、一年中雪におおわれた急峻な山々が連なる景観から、「ヨーロッパの屋根」とよばれている。かつては氷河に広くおおわれていた地域で、U字谷などの氷河地形を見ることができる。

アルプス山脈より北側には、フランス平原や東ヨーロッパ平原をはじめ

めとする平原や、なだらかな丘陵が広がり、ライン川などの国際河川が流れている。これらの河川は勾配がゆるやかで水運に適しているため、流域には都市が生まれ、工業が発達した。さらに北部に行くと、スカンディナヴィア半島西岸のフィヨルドなどの氷河地形も見られる。気候は、暖流の北大西洋海流や偏西風の影響を受ける西岸海洋性気候であり、日本よりも緯度が高い位置にありながら、冬の寒さはあまり厳しくない。

これに対して、アルプス山脈の南側は北側よりも山がちで、たびたび地震も発生する。気候は、夏に乾燥して気温が高くなる地中海性気候で、乾燥に強い作物の栽培がさかんである。地中海沿岸には、ミコнос島をはじめ、人気のあるリゾートが数多く立地し、観光業も発達している。

① フランス語で休暇のこと。法律で数週間の連続休暇をとることが認められているフランスでは、夏に1か月ほどの長期休暇をとるのが一般的になっている。

② 複数の国の領土を通過し、条約によりどの国の船舶でも自由に航行できる河川。ライン川のほ

ヨーロッパの自然についての学習内容がコンパクトに整理された本文

日本と各地域を比較できる

●●●のデータ

クリスマスをお祝いする文化を
理解できる写真



① 大聖堂前の広場で開かれるクリスマスマーケット(ドイツ、ケルン、2012年撮影) ヨーロッパの町では、クリスマスが近づくと、街の中心にある教会や市庁舎前の広場で、クリスマス用品を売るクリスマスマーケットが開かれる。

② ドイツの伝統工芸品、くるみ割り人形。ドイツの家庭では、クリスマスに、くるみ割り人形をかざる習慣がある。



③ クリスマスツリーに

キリスト教が根づく暮らしを
イメージできる写真

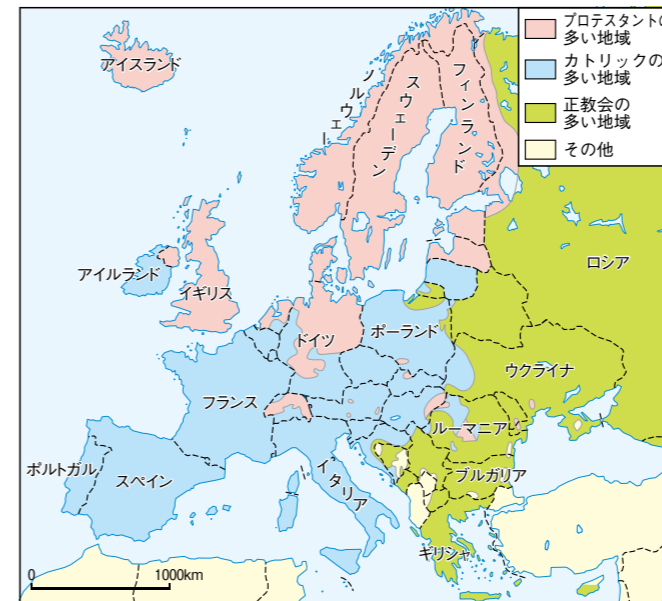


Report 心温まるクリスマス♡

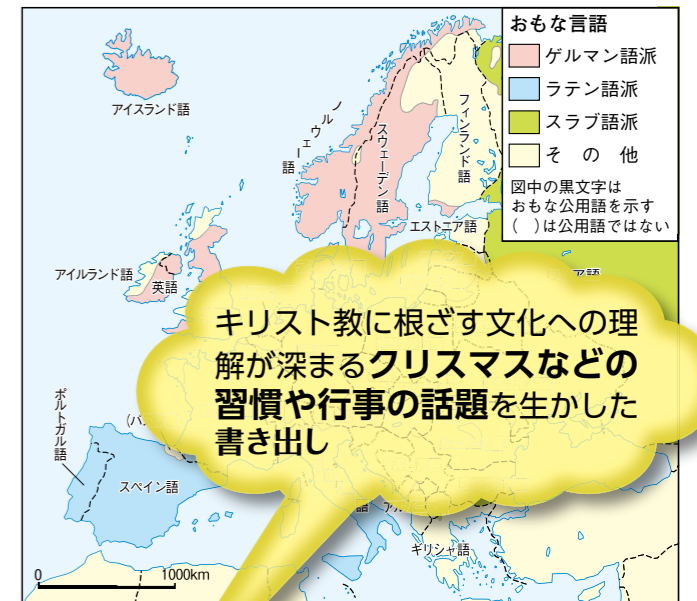
ドイツのクリスマスシーズンはとても楽しい。1か月も前から街のいたるところでクリスマスマーケットが開かれ、街全体がクリスマスの雰囲気になっていく。教会の前のマーケットは、クリスマスのかざりやおもちゃを買い求める家族連れであふれ、大きなツリーの前ではコンサートも開かれてとてもにぎやか。クリスマスのおみやげに、木彫りのくるみ割り人形を買って帰ろう！

クリスマスを取り口にキリスト教に根ざす文化が理解できる旅行体験記

ヨーロッパ各地の教会で礼拝が行われ、集まった人々が賛美歌を歌い、祈りをささげる。



⑤ ヨーロッパの宗教分布(Diercke Weltatlas 2008, ほか)



⑥ ヨーロッパの言語分布(国立民族学博物館資料, ほか)

キリスト教に根ざす文化への理解が深まるクリスマスなどの習慣や行事の話題を生かした書き出し

2 キリスト教に根ざす文化

生活のなかのキリスト教

ヨーロッパでは、クリスマスやイースター(復活祭)など、キリスト教の重要な行事の期間は休暇をとって、家族で祝う習慣がある。こうした行事以外にも、聖書を読んだり、日曜日に教会へ礼拝に行ったりすることが日常的となっている。また、多くの人が結婚や葬儀を教会で行っているように、キリスト教はヨーロッパの人々の生活のなかに深く根づいている。ほかにもキリスト教の文化は、大聖堂のような建物をはじめ、絵画、音楽、思想、文学など、幅広い分野でヨーロッパに大きな影響をもたらしてきた。

キリスト教には、プロテスタント、カトリック、正教会という三つのおもな宗派がある。その分布は言語にも関係が深く、プロテスタントはゲルマン語派、カトリックはラテン語派、正教会はスラブ語派の分布とそれぞれ重なる部分が多い。このような宗派や言語の違いを反映して、同じキリスト教でも地域によって文化や習慣は少しずつ異なっている。

ヨーロッパの歩み

15世紀以降、ヨーロッパの国々は世界各地に植民地を築いていった。その結果、キリスト教をはじめとするヨーロッパの文化は、南北アメリカ大陸やオセアニアなど、世界各地に広がった。20世紀に起こった二度の世界大戦ののち、ヨーロッパは東西に分断され、冷戦とよばれる対立の時代に入った。しかし、1989年に始まった東ヨーロッパ諸国の民主化と政治改革によって冷戦構造は解消され、ヨーロッパは統合への道を歩み始めた。

日本との文化的な差異などを楽しく紹介した 旅先でのエピソード

旅先でのエピソード

街かどで見かけるアイコン

ギリシャの街を歩いていると、いたるところで、アイコンとよばれる聖像画が売られているのを目にする。ギリシャの人々が信仰するギリシャ正教では、立体像が禁じられているため、アイコンが信仰の対象となっている。結婚や出産など、人生の節目となるような祝いごとの際には、アイコンがプレゼントされることもある。家庭では、家のどこかにアイコンがかざられ、大切にされている。



⑦ みやげもの屋で売られるアイコン(ギリシャ、ケルン、2014年撮影)

キリスト教に根ざす文化についての学習内容がコンパクトに整理された本文



ピザやパスタを食べるイタリアの食文化をイメージできる写真

ソーセージを食べるドイツの食文化をイメージできる写真



↑2 マルゲリータ

↑3 通りで売られる種類のソーセージ(ドイツ、ベルリン)ドイツの人々にとってソーセージは、毎日のように食べる国民食である。

Report

本場のピザに感動!

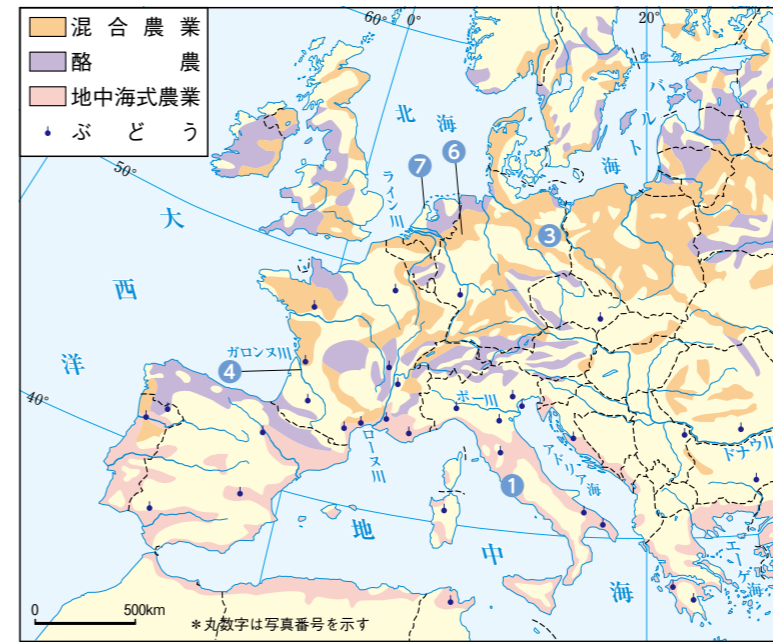
ピザの本場イタリアで、店員にすすめられるままに出てきたマルゲリータを見て「ん!?!」。いつも日本で食べていたピザに比べて具が少ない。これがオススメ?と思いつつも食べてみると、**口の中でチーズとトマトソース、オリーブオイルが合わさってとてもおいしい!**たったこれだけの材料でこんなにもおいしいピザができるなんて、まいりましたm(_ _)m

地中海式農業で生産される作物とピザを関連づけた旅行体験記



↑4 ワイナリーのぶどう畑(左、フランス、2010年撮影)と樽に貯蔵されたワインの試飲(上、フランス、ボルドー)

農業のようす



↑5 ヨーロッパの農業地域(Alexander Kombiatlas 2003, ほか)



↑6 混合農業が行われる近郊, 2014

3 ヨーロッパの農業と食文化

多様な「食」をはぐくむ農業

ヨーロッパでは、各地に個性的な食文化がみられ、日本からも多くの人々が「食」を楽しみにヨーロッパを訪れる。これらの食文化は、ヨーロッパ各地の自然環境のなかで発達した農業と深いかかわりがある。

- 5 地中海性気候の地中海沿岸部では、オレンジやオリーブのような夏の乾燥に強い果樹や、冬の雨を生かした冬小麦などを栽培する**地中海式農業**が営まれ、市場にはさまざまな農産物が並ぶ。ピザやパスタはそれらの豊富な農産物と、海でとれる魚介類を使った料理である。西岸海洋性気候の北西ヨーロッパや亜寒帯気候の東ヨーロッパでは、食料と飼料作物の栽培に、牛や豚などの家畜の飼育を組み合わせ**混合農業**が行われている。食料としてはじゃがいもやライ麦、飼料作物としては**てんさい**や大麦などが、各地の気候に合わせて栽培されている。混合農業がさかんなドイツで、じゃがいもやソーセージが中心の料理となるのはそのためである。フランスでは夏の少雨を生かした**ぶどう**の栽培がさかんで、ぶどうからつくられるワインは、フランス料理に欠かせないものとなっている。一方、オランダやスイスなど、穀物栽培に適さない地域では**酪農**が営まれ、チーズやバターなどの乳製品の加工や販売がさかんである。オランダでは、農産物を新鮮なうちに市場へ出荷できる都市近郊で、野菜や花などを栽培する**園芸農業**も行われている。

ヨーロッパの多様な農業への理解が深まるよう、ヨーロッパ各地の食文化と関連づけて記述された本文

日本と世界各地のモノや文化とのかかわりを紹介した

発見! 日本と世界のかかわり

回転ずしでノルウェー産を発見!

回転ずしで人気のサーモン。すし種となる生鮮冷蔵のさけは、大半が航空機で輸入されたノルウェー産である。一方、スーパーマーケットなどでよく見かけるチリ産のさけは、冷凍船で海上輸送されてくる(→p.20)。

→8 回転ずしでサーモンを食べる子供たち(東京都)

世界的なファッションブランドが育つヨーロッパをイメージできる写真



1 ブランドショップが集まるアーケードで買い物を楽しむ人々(イタリア, ミラノ, 2010年撮影)

2 ブランド品のバッグの製造(イタリア, フィレンツェ郊外) バッグや靴などの皮製品で世界的に知られるブランドであるが, その製品は職人の手で一つ一つ丁寧に作られている。

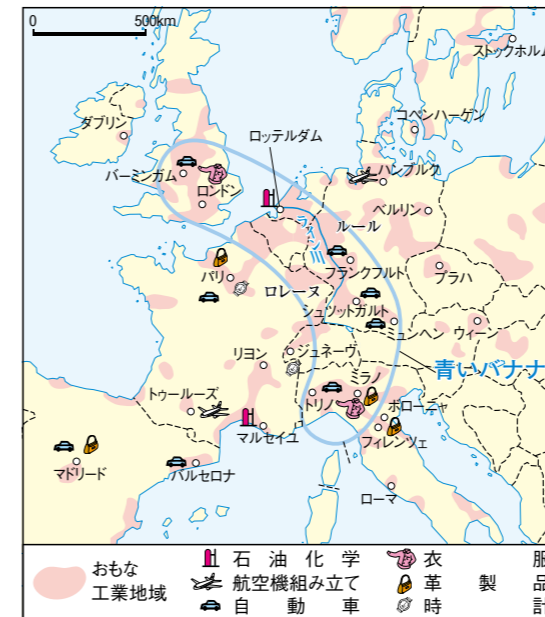
3 世界中のファッション業界が注目するミラノコレクション(イタリア, ミラノ, 2015年撮影)



Report
ファッションの街ミラノ☆

ミラノに来たら, ガレリアでの買い物はずせない。天井はガラス窓, 床はモザイクでつくられた歴史ある雰囲気のあるアーケードに, 世界の一流ブランドのショップが並んでいる。おしゃれなバッグや服, 靴などがディスプレイされたショーウィンドーには目移りしてしまう。ちょうど夏のセールの時期だったので, 前からほしかったイタリアブランドのバッグを安く買えて大満足～!

ミラノでのショッピングを疑似体験できる臨場感あふれる旅行体験記



4 世界的な自動車メーカーのショールーム(ドイツ, ミュンヘン, 2013年撮影) 自動車産業が発達したドイツには, 世界的な自動車メーカーの本社がいくつもある。

4 ヨーロッパ中心部の工業 (Diercke Weltatlas 2008, ほか)

4 ヨーロッパの工業

地域の伝統や資源を生かした工業

パリやミラノをはじめ, ヨーロッパがファッションの世界的な中心地となっているのは, 職人の手作業でつちかてきた熟練の技術を, 革製品や服飾, 時計などの分野で生かし, 多くの世界的なブランドを育ててきたからである。

イタリア中部・北東部の「第3のイタリア(サードイタリア)」¹とよばれる地域では, 現在もそうした伝統を生かした高級品を生産する, 中小の地場産業が数多く立地している。このような「伝統産業」のほかにも, ヨーロッパではそれぞれの地域の資源を生かした工業が古くから発達してきた。

18世紀後半に産業革命が起きると, ドイツのルール地方の石炭やフランスのロレーヌ地方の鉄鉱石など, 資源を基盤にした重工業²が発達し, 西ヨーロッパの経済成長を支えた。しかし, 1960年代に石炭から石油へのエネルギー転換が始まると, 工業の中心はしだいに石油化学工業へと移り, ロッテルダムやマルセイユなど原油の輸入に便利な臨海部に工業地域が形成された。現在, 最も産業が発達しているのは「青いバナナ」とよばれる地域である。この地域には大都市が数多く立地し, 交通網も発達していることから, 先端技術産業や自動車産業などが集まっている。なかでも, EU各国が共同で開発している大型旅客機は, イギリス, フランス, ドイツ, スペインなどの企業が部品の生産を国際分業³することで, 産業としての競争力を高めている。さらに, 近年では安価な労働力や新たな市場を求めて, 東ヨーロッパ諸国への企業進出も増えている。

ヨーロッパの伝統産業への理解が深まるファッションの話題を生かした書き出し



5 組み立て工場に空輸されてきた大型旅客機の部品(ドイツ, ハンブルク) EU各国で生産された翼や胴体などの部品は, 専用の貨物機などでフランスのトゥールーズやドイツのハンブルクにある組み立て工場に輸送される。

1 トリノやミラノなどの北部の重工業地帯, 南部の農業地帯とは異なる第3の産業地域という意味で, ポローニャやフィレンツェがその中心。

2 イギリス南部からドイツ西部とフランス東部を結ぶ「タール」地帯。EUのシンボルである「タール」をイメージしている。

ヨーロッパの工業についての学習内容がコンパクトに整理された本文



オランダ側

ベルギー側

◀ 1 国境をはさんでカフェでつるぐ旅行者(オランダ、ブレダ近郊, 2015年撮影)

自由に行き来できる国境をイメージできる写真

Report 国境だらけのふしぎな街

ベルギーとオランダの国境に近い街、バーレルナッソー。ここは、オランダの中に21か所ものベルギーの飛び地が点在する珍しい場所だ。街を歩くと、あちこちに国境線を示す十字の表示がある。家の中を国境線が通っている場合には、玄関のドアがある方の国の国民になるとのこと。散策しながら何度も国境線をまたぎ、1日でオランダとベルギーを50回以上も行き来してしまった(^_^)



↑ 2 国境を自由に行き来する人々(ドイツ、ケール, 2015年撮影)

↓ 3 ユーロで値段が表示されているスーパーマーケット(ドイツ、フランクフルト, 2015年撮影) ドイツの旧通貨はマルクであったが、2002年からユーロ(EURO)が流通するようになり、今ではすっかり定着している。



自由に国境を行き来できるヨーロッパの特徴にふれた旅行体験記

↑ 4 EU加盟国の拡大(2015年現在)
*1 キプロスについては、北部地域は正式に加盟していないが、一国として扱っている。
*2 1990年の東西ドイツ統一によって、EC(現EU)はかつての東ドイツ地域まで拡大した。

加盟年	国名	最低賃金(2013年)
原加盟国	ルクセンブルク	1874.2
	ベルギー	1501.8
	オランダ	1469.4
	フランス	1430.2
1973年加盟国	アイルランド	1461.9
	イギリス	1249.9
1981年加盟国	ギリシャ	683.8
1986年加盟国	スペイン	752.9
	ポルトガル	565.8
2004年以降の加盟国	ポーランド	392.7
	ハンガリー	335.3
	チェコ	318.1
	ルーマニア	157.5

↑ 5 EUのおもな国における1か月あたりの最低賃金の比較(2013年)(Eurostat)

EUをゆるがす難民の受け入れ問題

内戦が続くシリアなど、中東や北アフリカの国々からEUへ流入する難民が増えている。こうした難民は、地中海やパルカン半島を経由してドイツやスウェーデンなどをめざす。少子高齢化が進むドイツは、若年層の多い移民の受け入れが労働力確保につながるの考えから、移民を積極的に受け入れてきたが、住居や医療、教育など、さまざまな支援が必要となる難民の受け入れに対しては、EU各国で対応が異なる。難民流入の最前線となるイタリアやギリシャでは、国境の管理も限界に達しているため、各国が負担を分け合い、EU全体が足なみをそろえて難民に対応することが課題となっている。



↑ 6 ハンガリーとセルビアの国境を歩く難民(2015年撮影)

トピックス

5 ヨーロッパの統合

結びつきを強めるヨーロッパ

日本から海外へ行くときは、パスポート審査や通貨の両替が必要である。これに対してヨーロッパの多くの国々では、そうした手続きをすることなく、自由に国境を行き来できる。

その背景には、第二次世界大戦後、人口規模が小さいヨーロッパの国々が、国の枠組みを越えて協力することにより、地域の発展をめざしてきた歴史がある。ヨーロッパでは、数か国の経済協力から始まった国家間の結びつきが、1967年にヨーロッパ共同体(EC)となり、1993年にはヨーロッパ連合(EU)へと発展した。その後、東ヨーロッパ諸国も加わり、加盟国は28か国にまで増え、加盟国の間では人やモノの移動が活発化している。例えば、シェンゲン協定に加盟した国々では、パスポートを提示せずに国境を自由に移動できるようになっている。また、EUの域内で関税が撤廃されたことで、生産品の流通も増加している。1999年からは単一通貨ユーロが導入され、為替レートの変動に影響されない自由な経済活動ができるようになった。

統合されたヨーロッパの課題

EUの経済的な統合は進んでいるが、加盟国間には依然として大きな経済格差がある。このため、経済水準の低い東ヨーロッパ諸国の労働者が、より高い賃金を求めて、ドイツやフランスなどの西ヨーロッパ諸国へと移動している。一方で、そうした外国人労働者の流入により、自国民の失業率が増加したり、社会保障費の負担が重くなったりするという懸念もある。トルコ系移民やシリア難民など、異なる宗教・文化をもった人々の流入も増えており、こうした人々との共生も、統合に伴う大きな課題となっている。

ヨーロッパの結びつきへの理解が深まるよう、自由に行き来できる国境の話題をふまえた書き出し

ヨーロッパの旅はユーロが使える国が多いので、両替の手間が省けてとても便利である。ところがイギリスでは、EU加盟国であるのにユーロが使えず、ポンドに両替しなければならない。ユーロへの切りかえによって、自由な経済政策が制約されることを望まないイギリスは、現在も独自の通貨ポンドを使い続けている。



↑ 7 イギリスの20ポンド紙幣(上)と20ユーロ紙幣(下)

ヨーロッパの統合についての学習内容がコンパクトに整理された本文



↑① さまざまな風水害 崖崩れや地滑りなどの土砂災害は、土壌中の水分量が多いほど発生の可能性が高くなる。そのため、弱い雨でも連続して降ると、災害の危険性が高まる。

1 雨や地震などによって、不安定となった斜面の一部が急速に崩れる現象。

2 雨水や雪どけ水の地下への浸透によって、斜面の大きなかたまりが動きやすくなり、ゆっくりと下方に移動する現象。

リアリティが感じられるよう、生徒にとって身近な取り組みまで丁寧に解説された本文

→② 日本の豪雪地帯(国土交通省資料) 読み取り 豪雪地帯・特別豪雪地帯は、日本海側と太平洋側のどちらに多く分布しているだろうか。



日本の自然環境の特徴と災害の関連が理解できる本文

4 風水害・雪害と防災

地域によって異なる風水害

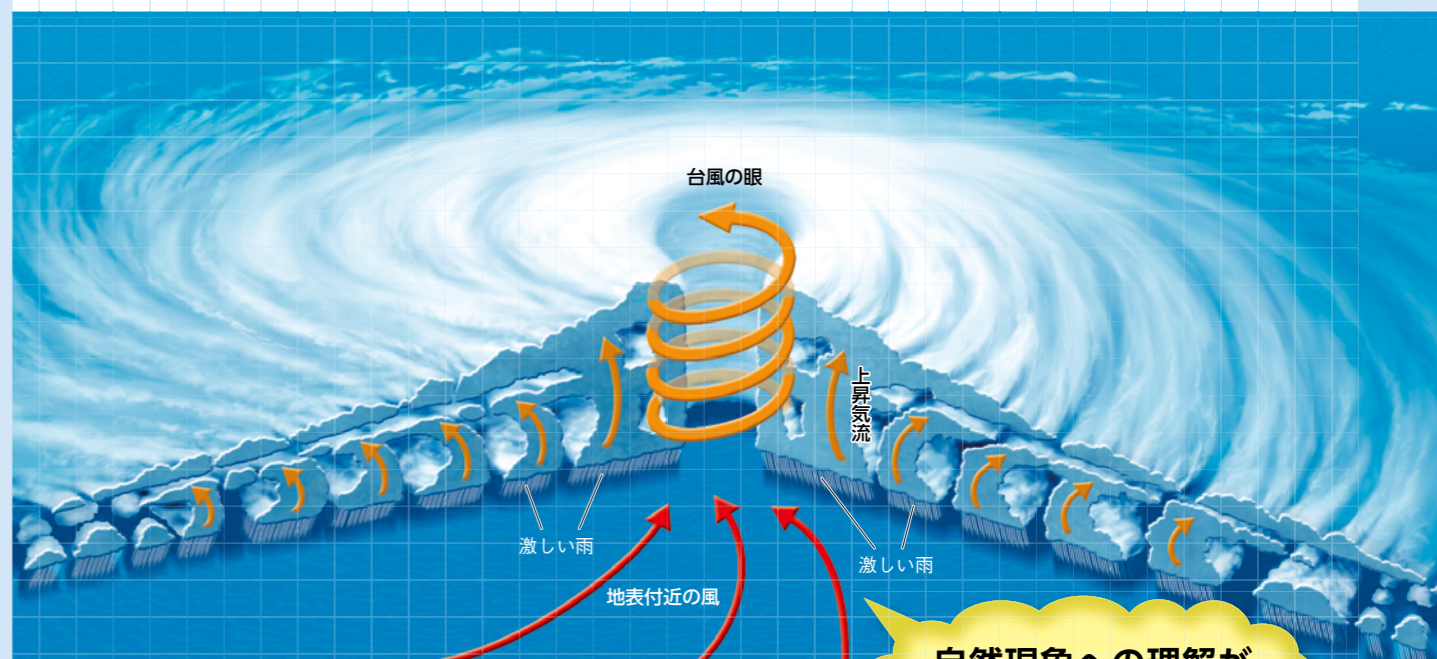
日本列島では、山地が急峻で河川の勾配も急であるという地形条件、夏の時期には梅雨前線の停滞や台風の通過による大雨が多いという気象条件、河川や海岸に沿って多くの人が住んでいるという社会条件が重なって、水害が起きやすい。

その被害は地域によっても大きく異なる。河川の上流の山間部や台地のへりでは、崖崩れや地滑り、土石流などの土砂災害による被害を受けることが多く、下流の平野部では、河川の氾濫などによる洪水の被害を受けることが多い。台風が襲来すると、雨による災害だけでなく、強風による家屋の倒壊などの被害も生じる。また、海面が普段よりも高くなる高潮によって、沿岸部では浸水などの被害が生じることもある。竜巻が発生した際には、強風による建物の倒壊などの被害が生じる。

水害への備え

水害の多い日本では、水害への対策(治水)が伝統的に行われてきた。周辺よりも地盤が高い自然堤防に家屋をつくり、地盤が低い土地を、洪水時に一時的に水をためる遊水地として活用してきた地域もある。今日では、ダムや堤防の建設、河川改修などを行うことで水害の防止を試みているほか、水害が発生した際に人的被害を減らすための取り組みが行われている。ハザードマップの作成とそれを利用した避難訓練の実施もその一例である。このほかにも、避難勧告のメール配信などの取り組みが行われている。

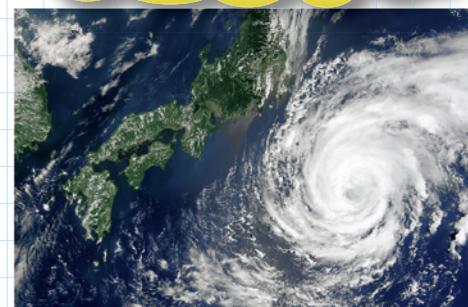
SKILL 11 台風が暴風雨をもたらすしくみを考えよう



↑④ 台風の構造

熱帯の海洋上で発生する空気のうず巻きのことを熱帯低気圧(→p.41⑪)といい、熱帯低気圧のうち、最大風速が秒速17.2mをこえるものを台風とよぶ。台風は地球の自転の影響で回転しており、上から見ると数百km以上の大きさをもつ巨大なうずとなっている。中心には雲のない台風の眼があり、垂直に発達した厚い積乱雲が眼のまわりを壁のように囲んでいる。積乱雲は、強い上昇気流によって発達した雲で、その雲の下では激しい雨や突風をもたらされる。このため地表では、気圧の低い台風の眼に向かって強風が吹き込み、この強風とともに激しい雨が暴風雨となって吹き荒れる。台風は、夏から秋にかけて日本に接近し、大きな災害をもたらす。とくに秋には、偏西風に流されて日本列島に接近・上陸することが多いため、台風への警戒が必要である。

自然現象への理解が深まる大きな模式図



↑⑤ 日本列島に接近する台風

さまざまな雪害

本州や北海道の日本海側は世界的な豪雪地帯である。冬には雪が積もり、建物の倒壊などの被害が生じることもある。屋根に積もった雪を下ろす際の転落事故も多い。山間部ではなだれによる災害が深刻で、スキーやスノーボード、冬山登山や温泉といったレジャー目的で訪れる観光客が巻き込まれることもある。一方、降雪の少ない太平洋側では、雪への備えが不十分な場合が多く、ひとたび雪が降ると、路面凍結などによる交通事故や歩行中の転倒事故、物流の停滞などが起こる。

雪の少ない地域の生徒でも当事者意識が感じられるように工夫された本文



近年発生した被害事例を取り上げたことで、リアリティが感じられる導入資料



↑0 冠水した市街地(京都府, 福知山市, 2014年8月撮影)



↑2 被災した住民を救助する自衛隊員(京都府, 福知山市, 2014年8月撮影)

NEWS 頻発する豪雨被害

2014年7月30日から8月26日にかけて、西日本を中心に日本の広範囲で豪雨が発生した。この豪雨は、京都府福知山市に大規模な洪水被害をもたらした。兵庫県丹波市や広島県広島市に大規模な土砂災害をもたらした。豪雨の原因となったのは、あいついで日本に接近した台風と、発達した前線であった。気象庁は、建物の損壊や浸水が著しかった災害に名称をつけており、この豪雨は「平成26年8月豪雨」と命名された。

↓3 土砂が流れこんだ住宅地(広島県, 広島市, 2014年8月撮影)

↓4 土石流によって流された住宅(広島県, 広島市, 2014年8月撮影)



今も生きる先人の知恵

暮らしに根ざす水害対策

木曾川・長良川・揖斐川という三つの大河川が流れる濃尾平野では、河川の水面よりも低い土地が多くあり、古くから洪水や高潮などの水害に悩まされてきた。そのため、集落全体を堤防で囲んだ輪中を築くことにより、洪水を防いできた。1976年の水害の際にも、輪中堤の中の輪之内町は浸水をまぬかれた。また、輪中の集落には、母屋よりも一段高い盛り土や石垣の上に水屋がつくられているところがある。水屋は、普段は倉庫として使われているが、万が一、洪水が起きた際には避難場所とされ、避難用の小舟が常備されていることもある。



輪之内町(輪中の中の集落)

↑5 浸水をまぬかれた輪中の集落(岐阜県, 1976年撮影)



→6 輪中の模式図

都市型水害の発生

都市の開発や居住域の拡大とともに、水害の規模や性質も変容してきた。2014年に発生した福知山市の洪水被害や、広島市の土砂災害も都市化が原因の一つである。

日本人は古くから、自然堤防上などの微高地に居住していたが、都市化が進むにつれて後背湿地などの低地にも宅地が広がった。これにより、大雨で河川が氾濫すると大きな被害が生じやすくなった。また、現在の都市では、地表面の大部分がアスファルトやコンクリートでおおわれている。そのため、降った雨がほとんど地下に浸透せず、低いところへと一気に流れ込み、河川水位の急激な上昇、低地や地下街の浸水など、都市部に特有の水害(都市型水害)が起きることがある。都市開発が山地に近いところまで拡大している地域では、土石流などが大きな被害をもたらすことがある。

近年では夏になると、都市部の狭い地域で、短時間に集中した大雨が降る局地的大雨(ゲリラ豪雨)が発生することが多く、これも都市型水害の原因になっている。局地的大雨の発生には、都市部の気温が周辺地域よりも高くなるヒートアイランド現象が影響していると考えられている。

都市型水害の対策

都市部での水害を防ぐため、公園や校庭を掘り下げた小規模な貯水池や、大規模な地下調節池などをつくり、大雨のときに一時的に雨水を貯水して、河川に水が集中しないようにする工夫がみられる。東京都の地下には、巨大空洞が建設されている場所があり、集中豪雨の際には雨水が流れ込むようになっている。現在では、気象観測の技術も向上しており、狭い地域で急速に発達する雨雲もとらえることができるようになった。そのため、深刻な水害を引き起こす集中豪雨や局地的大雨に対する予報や避難指示の精度も高まっている。

昔から受け継がれている防災の知恵を紹介した

今も生きる先人の知恵

導入資料で取り上げた福知山市と広島市の被害事例を生かした書き出しによるスムーズな学習展開



↑6 地下につくられた洪水対策用の調節池(東京都, 杉並区, 2011年撮影) 内径10m以上のトンネルに水を貯め、洪水を防ぐ。

気象観測技術の向上など、防災に関わる最新の動きまで解説された本文

もくじ

旅への誘い…………… 巻頭 I

第1部 現代世界の特色と世界の諸地域の課題

1章 旅からとらえる現代世界

- ①旅の目的はいろいろ…………… 4
- ②海外旅行を身近にしたもの—情報通信・交通—…………… 6
- ③旅を身近にする地図—地球儀と地図—…………… 8
- ④緯度が違うと何が違う？—緯度と季節—…………… 10
- ⑤経度が違うと何が違う？—時差—…………… 12
- ⑥ほかの国に入るといことは—国家—…………… 14
- ⑦日本の領域と領土問題…………… 16
- ⑧国どうしのまとまり—国家間の結びつき—…………… 18
- ⑨モノの産地はいろいろ—貿易—…………… 20

2章 世界の自然環境と文化

- 1節 地形**…………… 24
 - ①躍動する大地…………… 24
 - ②川がつくる地形…………… 26
 - ③海岸でみられる地形…………… 28
 - ④氷河地形・カルスト地形…………… 30
- 2節 気候**…………… 32
 - ①地域による気候の違いと人々の生活…………… 32
 - ②熱帯の気候と人々の生活…………… 36
 - ③乾燥帯の気候と人々の生活…………… 38
 - ④温帯の気候と人々の生活…………… 40
 - ⑤亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活…………… 42
- 3節 文化**…………… 44
 - ①宗教・言語と人々の生活…………… 44
 - ②生活・文化のグローバル化…………… 46

3章 世界の諸地域の生活・文化

- 1節 中国**…………… 50
 - ①中国の自然…………… 50
 - ②多民族国家と社会…………… 52
- 2節 中国の食文化と農業の変化**…………… 54
 - ④経済の発展と生活の変化…………… 56
 - ⑤中国のさまざまな課題…………… 58
- 2節 韓国**…………… 60
 - ①韓国の自然…………… 60
- 2節 韓国の文化と歴史**…………… 62
 - ③韓国の生活と産業の変化…………… 64
- 3節 東南アジア**…………… 66
 - ①東南アジアの自然…………… 66
 - ②東南アジアの歴史と文化…………… 68

- 3節 東南アジアの農業**…………… 70
 - ④経済の発展とASEAN…………… 72
 - 4節 南アジア**…………… 74
 - ①南アジアの自然…………… 74
 - ②ヒンドゥー教の世界と人々の生活・文化…………… 76
 - 3節 発展する南アジアの産業**…………… 78
 - 5節 中央アジア・西アジア・北アフリカ**…………… 80
 - ①中央アジア・西アジア・北アフリカの自然…………… 80
 - 2節 イスラムというまとまり**…………… 82
 - ③豊かな石油資源と生活の変化…………… 84
 - 6節 サハラ以南のアフリカ**…………… 86
 - ①サハラ以南のアフリカの自然・生活・文化…………… 86
 - 2節 自然環境に適した農業**…………… 88
 - ③豊富な資源が生み出す光と影…………… 90
 - 7節 ヨーロッパ**…………… 92
 - ①ヨーロッパの自然…………… 92
 - ②キリスト教に根ざす文化…………… 94
 - 3節 ヨーロッパの農業と食文化**…………… 96
 - ④ヨーロッパの工業…………… 98
 - ⑤ヨーロッパの統合…………… 100
 - 8節 ロシア**…………… 102
 - ①ロシアの自然…………… 102
 - ②ロシアの文化と生活の変化…………… 104
 - 3節 ロシアの産業**…………… 106
 - 9節 アメリカ合衆国**…………… 108
 - ①アメリカ合衆国の自然…………… 108
 - ②移民国家としての歴史と多文化社会…………… 110
 - 3節 世界の市場に影響を及ぼす農業**…………… 112
 - ④世界をリードするアメリカ合衆国の鉱工業…………… 114
 - 10節 ラテンアメリカ**…………… 116
 - ①ラテンアメリカの自然…………… 116
 - ②ラテンアメリカの歴史と文化…………… 118
 - 3節 ラテンアメリカの産業**…………… 120
 - 11節 オセアニア**…………… 122
 - ①オセアニアの自然…………… 122
 - ②オセアニアの歴史と多文化社会…………… 124
 - 3節 オセアニアの産業**…………… 126
- #### 4章 地球規模で広がる課題
- ①世界の人口問題…………… 128
 - ②世界の食料問題…………… 130
 - ③世界の都市・居住問題…………… 132
 - ④世界の資源・エネルギー問題…………… 134
 - ⑤世界の環境問題…………… 138
 - ⑥地球的課題の解決に向けて…………… 142

第2部 身近な地域の課題

1章 身近にあるさまざまな地図

- ①さまざまに表現される主題図…………… 144
- ②一般図の利用…………… 150
- ③GISを用いた地図表現…………… 154

2章 日本の自然環境と防災

- 1節 日本の自然環境**…………… 156
 - ①日本の地形…………… 156
 - ②日本の気候…………… 158
- 2節 防災の取り組み**…………… 160
 - ①身近な地域の防災を考える…………… 160

SKILL

地理学習において、とくに重要な技能と、それにかかわる内容についてまとめたコーナー。

- ①統計資料をグラフにしよう…………… 22
- ②統計地図を読み取ろう…………… 23
- ③旅行先の気候を知ろう…………… 35
- ④海外旅行を計画しよう…………… 48
- ⑤観光地図を見てみよう…………… 146
- ⑥身近な地域の地図を描こう…………… 149
- ⑦地形図を活用しよう…………… 152
- ⑧ハザードマップを活用しよう…………… 161
- ⑨地震と津波のしくみを考えよう…………… 163
- ⑩火山が噴火するしくみを考えよう…………… 167
- ⑪台風が暴風雨をもたらすしくみを考えよう…………… 171
- ⑫新旧の地形図を比較しよう…………… 177

【本書におけるコーナー】

Report

学習テーマに関連した、世界各地からの旅行記や体験談などが書かれている。学習内容を読み解く参考にしよう。

NEWS

学習テーマに関連した事例が、報道ニュースの形式で書かれている。学習内容を読み解く参考にしよう。

トピック

学習テーマに関連した話題を取り上げている。地域の事例を紹介したり、発展的な内容を掲載したりしている。

旅先でのエピソード

世界各地を旅したときに、ふしぎに思ったことや、私たちの生活・文化とは異なっていると感じたことなどを紹介している。

発見!

日本と世界のかかわり

日本で発見できる世界各地のモノや文化とのかかわり、世界で発見できる日本のモノや文化を紹介している。

データのデータ

さまざまな地域を知るための基礎的なデータとして、面積・人口・時差・日本からの飛行時間を掲載している。

今も生きる先人の知恵

日本人は古くから自然災害にどのように対応し、その知恵をどのように受け継いできたのかということを紹介している。

読み取り

図版や写真などから、地理的事象を読み取るための着眼点などを示している。

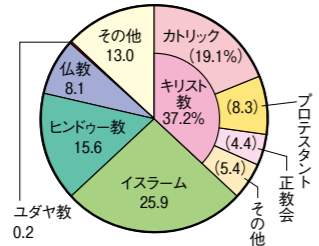
【本書を使うにあたって】

- 国名は、ほとんど略称を用いている。おもな略称は中国(中華人民共和国)／ロシア(ロシア連邦)／
- は、本資料で取り上げたページを示しています。
- II は、食生活を切り口にしたページを示しています。

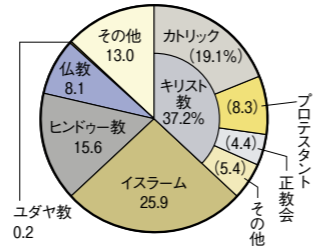
① カラーユニバーサルデザインに配慮した見やすくわかりやすい色調

色覚特性をもつ生徒が同じように見えてしまう色を隣どうしに配置しないことや、境界線を黒ではっきりと示すことで、資料を読み取りやすくしています。

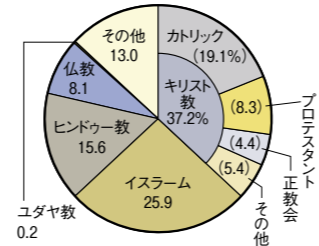
カラーユニバーサルデザインに配慮した図



D型*色覚の人の見え方



P型*色覚の人の見え方

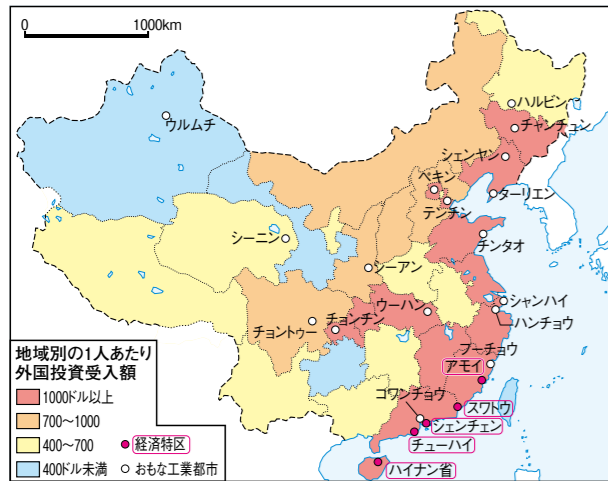


▲ p.45 ⑤世界の宗教別人口割合

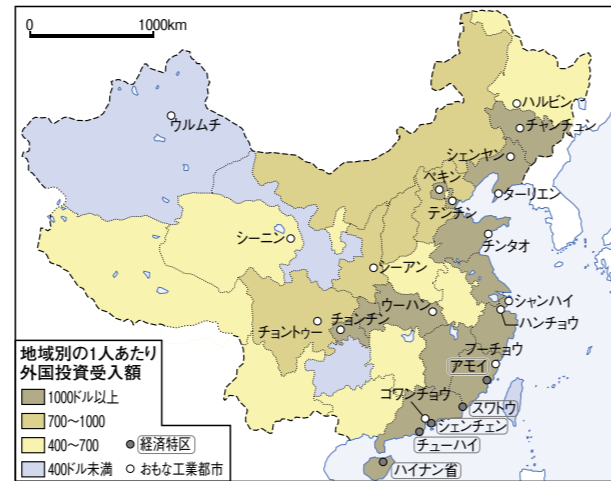
*色覚特性のD型とP型は、特性のなかでも代表的なものです。上下の図は、それらの色覚特性をもつ人の色の見え方をシミュレーションしたものです。

地図についても、色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色を使って配色しています。

カラーユニバーサルデザインに配慮した図



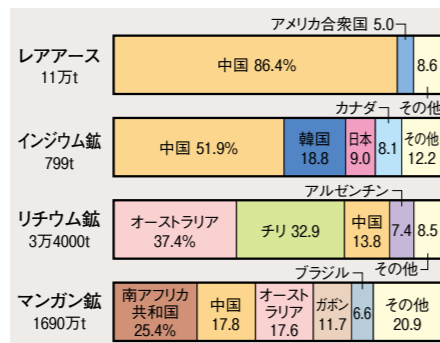
D型*色覚の人の見え方



▲ p.57 ④経済特区と外国投資の受入額

② 読み取りやすい図版表現

図の周囲をグレーで囲むことで、どこまでが同一の資料であるのか、わかりやすくしています。また、色のちらつきを抑え、読み取りに集中できるようにしています。



▲ p.136 ③おもなレア金属の生産国

③ 学習が進めやすい工夫

導入資料を偶数ページ、本文ページを奇数ページに配置し、見開きのレイアウトを原則統一しています。
地理的事象を読み取るための着眼点を示した「読み取り」を随所に設け、地理的見方・考え方を身につけながら学習を進められるようにしています。

④ 読みやすく誤読を防ぐ文字

教科書の見開きタイトル、本文、図版タイトルなどには、ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用しています。これにより、文章が読みやすくなり、誤読を防げるようにしています。

UDフォント

河川の洪水によってつくられた**氾濫原**という低地
 ・ふりがなはゴシック体に見やすくしています。
 ・濁点部分のすきまを充分確保して視認性を高めています。
 ・横画を太くすることで、視認性を高めています。

教師用指導書、指導者用デジタル教材、準拠ノートなど、周辺教材を充実させ、万全のサポート体制を整えております。弊社「高校教科書・副教材カタログ」および、「高等学校 指導者用商品・サポート案内」に詳細情報を掲載しています。あわせてご覧ください。
 *現在編集作業中のため、下記の内容は一部変更となる可能性があります。教師用指導書や準拠ノートは平成30年4月までに発刊予定です。
サンプル 部分サンプルをご用意しています。弊社までご連絡ください。

教師用指導書

高校生の地理A 指導資料 DVD-ROM付

- ①指導用教科書(朱書き)、②研究編、③教科書関連データDVD-ROMを収録予定です。
 ※①は単品販売もあります。下記参照。
 ・パスワード認証の「webサポート」をご利用いただけます。

高校生の地理A 指導用教科書(朱書き) **新企画**

- 教科書の見開き単位で、本文や図版・写真の解説、板書例などを掲載。ご専門外の先生にも手軽にお使いいただけます。 **サンプル**

指導者用デジタル教科書ベーシック版 高校生の地理A

- 教科書本体の誌面をはじめ、掲載図版ごとのデジタルデータを収録予定です。

教材備品

指導者用デジタルコンテンツ集 地理(Windows版・iOS版)

学習者用デジタルコンテンツ集 地理(iOS版)

- 地形や気候、緯度・経度、農業・工業など地理学習に必須のデジタル図版、統計データなどを収録予定です。デジタル教科書と組み合わせるとさらに便利にお使いいただけます。 **サンプル**

準拠ノート

高校生の地理Aノート **サンプル**

- 色塗りなどの作業を通して地理的見方・考え方が身につきます。
 ・地図を豊富に用いた「作業」と知識を整理する「確認」で、学習内容を習得できます。
 ・学習を深めるオリジナルコラムも多数掲載しています。

ウェブサイト

- 最新の統計・資料・写真など豊富なコンテンツを収録しています。
 ⇒<http://www.teikokushoin.co.jp/>

定期冊子

地理・地図資料

- 年4回無料でご希望の先生にお届けしています。ご希望の方は、弊社までご連絡ください。一部バックナンバーもご用意しています。

地理A教科書・地理B教科書・地理副教材のラインアップ



高等学校 新地理A (地A-308)



新詳地理B (地B-304)



新詳地理資料 COMPLETE



図説地理資料 世界の諸地域NOW



新詳資料 地理の研究

◆特色一覧

※本資料および下記の表は、弊社ウェブサイトで閲覧・ダウンロードできます。

項目	特色
総合的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ●好奇心あふれる地理学習を実現するために、世界を旅しながら学習できるストーリー展開が採用されている。 ●世界各地の姿を鮮明にイメージできるダイナミックな写真と、学習の要点にふれた臨場感あふれる旅行体験記からなる導入資料によって生徒の興味関心を高められるようになっている。 ●学習すべき内容や重要語句がコンパクトに整理された本文は、導入資料の話題を生かした書き出しになっており、「旅」から学習へとスムーズに展開できるようになっている。 ●食生活を切り口とした導入資料が随所に盛り込まれており、生徒の興味関心を高められるようになっている。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の全地域を、学習効果の高い写真・図版や豊富な具体事例で学習できるよう工夫されている。 ・第1部1章「旅からとらえる現代世界」では、以降の地理学習の基盤となるよう、地理を学ぶ意義を確認しながら、学習できるようになっている。 ・第1部2章「世界の自然環境と文化」では、写真や模式図などの資料とかみくだいた本文で、世界の多様性ある自然や生活文化について理解できるようになっている。 ・第1部3章「世界の諸地域の生活・文化」では、世界各地の生活・文化の特色をとらえる上で、学習効果の高い写真・図版や最新の事例が数多く扱われており、生徒の興味関心を高める工夫がなされている。また世界全地域をカバーしている。 ・第1部4章「地球規模で広がる課題」では、地球規模の課題とその解決に向けた取り組みについての考察を通じて、持続可能な社会をつくる方法を深究することができるようになっている。 ・第2部1章「身近にあるさまざまな地図」では、地図や地理情報システム（GIS）などにかかわる地理的技能が身につくようになっている。 ・第2部2章「日本の自然環境と防災」では、災害発生のメカニズムや特徴から具体事例による防災対策まで総合的に学ぶことができ、災害発生時に自らがとるべき行動を能動的に考えることができる。 ・第2部3章「身近な地域の課題と地域調査」では、身近な地域の課題を、観察や調査・見学などを通じてとらえ、社会参画の意義を理解することができる。 ・日本と世界各地の文化的な差異などを紹介した特設コラム「旅先でのエピソード」や日本と世界各地とのかわりを紹介した「発見！日本と世界のかかわり」を通じて、世界の諸地域の姿がとらえやすくなっている。 ・特設コーナー「SKILL」では、地理学習に欠かせない重要な技能がまとめられており、地理的技能を着実に習得し、地理的な見方・考え方が身につくようになっている。 ・全編を通じて、独自取材の写真など世界の最新情報がふんだんに盛り込まれ、実感を伴った学習ができるようになっている。
構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> ●184ページの分量のなかで、学習指導要領に対応した重要事項がもれなく丁寧に解説されている。 ・原則、1時限1見開きとなっているので、分量が適量で学習計画を立てやすくなっている。 ・導入資料の写真やコラムが工夫されており、世界各地の地域性がイメージしやすくなっている。 ・学習が深められるように、側注欄の解説やコラムが充実している。
表記・表現および使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ●AB判のワイドな判型が生かされ、写真や地図、グラフなどが大きく豊富に掲載されている。 ・カラー写真・図版がふんだんに盛り込まれている。 ・重要語句は太文字で示してあり、学習の際の手がかりとして活用できる。 ・本文やキャプションにはユニバーサルデザインフォント（UDフォント）が使用されている。 ・カラーユニバーサルデザインに配慮し、色覚に特性のある生徒にも読み取りやすい表現である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や図版が映える、発色の良いコート紙が使用されている。 ・1年以上の使用に耐えうるよう、堅牢な製本になっている。 ・環境に配慮した再生紙と植物油インキが使用されている。 ・教師用指導書や準拠ノートをはじめ、周辺教材が充実しており、効果的な学習ができる。

■著作者

片平 博文 (立命館大学 教授)
◆歴史地理学, オーストラリア地誌

戸井田 克己 (近畿大学 教授)
◆地理教育, 民俗地理学

須貝 俊彦 (東京大学 教授)
◆自然地理学, 地形学

小野寺 淳 (横浜市立大学 教授)
◆人文地理学, アジア地誌

木村 圭司 (奈良大学 教授)
◆気候学, 地理情報システム

武者 忠彦 (信州大学 准教授)
◆都市地理学

佐々木 緑 (広島修道大学 教授)
◆農業地理学, 環境地理学

 株式会社 帝国書院

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29

TEL 03-3262-0831

URL <http://www.teikokushoin.co.jp/>

※本資料に掲載されている内容は、一部変更となる可能性があります。